

肥料中の放射性セシウム測定のための検査計画書

平成 23 年 8 月 20 日
有限会社 今井テクノ有機

趣旨 農林水産省消費・安全局より平成 23 年 8 月 1 日付通知「放射性セシウムを含む肥料・土壌改良資材・培土及び飼料の暫定許容値の設定について」及び農林水産省消費・安全局農産安全管理課長平成 23 年 8 月 5 日付通知「肥料中の放射性セシウム測定のための検査計画及び検査方法の制定について」に準じて検査計画を策定し、検査を行い、製品の放射性物質に対する安全性を確認した上で出荷を行う。

検査方法

農林水産省消費・安全局農産安全管理課長平成 23 年 8 月 5 日付通知「肥料中の放射性セシウム測定のための検査計画及び検査方法の制定について」に準じて行う。

検査機関と検査機器と検査方法

- ・財団法人 食品環境検査協会予定
- ・ゲルマニウム半導体検出器による検査 (検出限界 50Bq/kg とする)

肥料等の採取方法

1. 生産ロットについて

A:原発事故前に生産され堆肥舎内で管理されている堆肥

在庫量 約3,800m³ (H23.8.1 現在)

B:原発事故前に生産され堆肥置き場にて野天で管理されている堆肥

在庫量 約 700m³ (H23.8.1 現在)

C:原発事故後〈平成 23 年 3 月～7 月までの 5 ヶ月で生産〉され堆肥舎で管理されている堆肥

在庫量 約4,100m³ (H23.8.1 現在)

D:堆肥置き場で管理している培土・赤土

在庫量 約 520m³ (H23.8.1 現在)

S:原発事故後〈平成 23 年 8 月から生産〉され堆肥置き場で管理されている堆肥

F:袋に詰めた製品

2. 採取した肥料のロット番号について

長野県ー B1ー 1ー 1100816ー10:00ーパーク堆肥

(県名) (採取した場所) ロット番号 (採取年月日) (採取時間) (肥料種類)

3. ロットと検査予定

*A.Bの堆肥

原発事故前に生産された堆肥は、約4,500m³在庫としてあり、これは、弊社の年間販売量のおおよそ8ヶ月である。従って平成24年6月までに出荷する堆肥倉内で安定的に管理しているため、これまでの検査結果が示すとおり、放射性物質は検出されておらず、ほとんど影響はないものと考えられる。

従って検査は、これら堆肥の山より、均等に10ヶ所を採取し、調合し、検査を下記の予定で行う。

肥料採取予定月	1回目	平成23年	8月16日(袋詰混合)	B1
	2回目	平成23年	9月10日頃	A1
	3回目	平成24年	1月20日頃	A2
	4回目	平成24年	4月20日頃	A3

*Cの堆肥

原発事故後5ヶ月間に生産された堆肥は、約4,100m³在庫としてあり、これは、来年平成24年の夏以降に販売が予定される。最も放射性物質の影響を受けている可能性があることから、この9月より徹底した検査を実施し、安全性を確認する。

採取については これら堆肥の山より、均等に10ヶ所を採取し、調合し、検査を下記の予定で行う

肥料採取予定月	1回目	平成23年	9月10日頃	C1
	2回目	平成23年	10月20日頃	C2
	3回目	平成24年	1月20日頃	C3

この3回の検査結果で放射性物質の影響について認識できると考える。

以後9月より新たに生産される堆肥については、この検査結果により検査計画を策定し、販売が予定される平成24年7月までに検査を行う。

* 培土及び培養土の原料となる赤土・モミガラ

培土は、堆肥置き場の赤土と堆肥を混合して熟成してある半製品の検査を行い、これから購入する原料については、特に赤土とモミガラについては購入前に検査を行い、安全性を確認してから搬入する。

肥料採取予定月	1回目	平成23年	8月16日頃(袋詰製品混合)	D1
	モミガラ	(松本市・安曇野市内の3農家)	平成23年	9月20日頃
	赤土	(松本市近郊)	購入前に検査を実施し確認する。	

* 堆肥及び袋詰め製品

袋詰め製品は、適宜必要に応じて検査を行う。

堆肥は、 **F** と表示する。

培養土は、 **FD** と表示する。

* その他

- S堆肥（平成23年8月1日～生産されたもの）については、販売が早くても平成24年10月以降となるため、平成24年6月頃より、検査計画を立て、これに基づき行う予定。
- 平成23年8月25日より、新しく袋詰めされる堆肥と培養土製品には、生産された年月日を下記のとおり印字する。

（印字例） **2011年08月25**

以上